

## 「アクロス・ザ・ユニバース」の後遺症

森 薫

昨年12月8日（ジョン・レノンの命日）、NPOこうちコミュニティシネマさんと映画「アクロス・ザ・ユニバース」を上映しました。ビートルズ倶楽部としては、映画上映は久しぶりで、90年に「イマジン」を上映した時の熱い嵐を思い出しました。

大勢の方から感想を頂きましたが、やはり団塊世代の方の熱い思いが印象的でした。団塊世代はこの映画の背景にある、60年代～を、リアルタイムに駆け抜けてきたものですから、その思い入れもひとしおだったと思います。

それにしても、この監督（ジュリー・テイモア：1952年生まれ）のアイデアは見事でした！ラブ・ソングから政治的メッセージが込められた歌まで、厳選されたナンバーを監督自身が感じたイメージで織り上げ、それを俳優（歌がみんな旨い）が見事に演じていました。本当に何回観ても飽きません。（この拙文を書くために、11回目を観てしまいました。）

特に、初期のラブ・ソング（all my loving/hold me tight/if I fell）なんかは当時好きだった女の娘を思い出し、涙腺を止めるのに苦労しました。ジョンさんは「本当に良い歌は、メロディーがなくても歌詞だけでその価値を見出せる歌であり、それに該当する曲こそが、アクロス・ザ・ユニバースである。」と言っています。

もちろん、「アクロス・ザ・ユニバース」の歌詞も素晴らしいのですが、ビートルズの歌からは“人生の愛や喜び悲しみ、”が自然に伝わってきます。みなさんが共感し、勇気を貰えるのはそんなところじゃないでしょうか！？

この映画の後遺症がまだまだ続いています。ビートルズ映画の中では、かなり印象に残る映画の一つでした。

ただ残念なことに、「All You Need is love」の訳詞はまったく逆のネガティブな意味になっていました！！<東北新社殿>

例えば、There's nothing you can do that can't be done 映画では、“できないことは、できないし”と訳す。正しくは、“あなたがやろうとして、できないことは何もない” All You Need is love 映画では“愛こそすべて”と訳す。正しくは、「それを実現するために、あなたに必要なものは愛」です！